報告事項No. 7 資料 5

令和4年度 社会教育委員会議第1回定例会議事録（摘録）

1 日 時 令和4年6月6日（月） 午後6時30分～午後8時40分

2 場 所 中原市民館 多目的ホール

3 出席者

(1) 委 員

森島委員、岩木委員、金丸委員、石村委員、下田委員、山本委員、
石川委員、町田委員、大津委員、高森委員、井口委員、秋元委員、
奥平委員、河村委員、丹間委員、中村委員、和田委員

（欠席：渡邊委員、丹野委員、長岡委員）

(2) 事務局 岸生涯学習部長、箱島生涯学習推進課長、山口生涯学習推進課担当課長（事業調整）、柿森生涯学習推進課担当課長（社会教育施設整備）、野崎課長補佐、関担当係長、齋藤職員、小林職員、柳尾職員

4 議 題

(1) 報告事項

① 社会教育委員会議の職務及び今期会議の進め方等について 【資料1】

(2) 協議事項

① 各種委員の選出 【資料2】

② 「市民館・図書館の管理・運営の考え方（案）」及び「（仮称）川崎市民館・労働会館 管理運営計画（案）」について 【資料3】

5 その他

6 傍聴 なし

事務局 本日の委員の出席状況は20名中17名の出席となっており、会は成立している。会議の議事運営は、議長にお願いするところだが、本日は第1回目の会議であり、議長選出までは事務局で進行する。資料の確認をお願いしたい。

委嘱状伝達については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、机上に配布させていただいたので、ご了承いただきたい。

主催者の挨拶として、岸生涯学習部長からご挨拶をさせていただく。

岸部長 失礼ながら、委嘱状を机上配布という形で交付させていただいた。これから2年間の任期となるのでよろしくをお願いしたい。

さて、コロナ禍も2年を経過し、今回活動報告ということで、「令和3年度教育文化会館・市民館活動報告書」をお配りしたが、昨年度の社会教育に関する事業の延べ参加者数が約3万2千人であり、コロナ前の平成30年度だと約11万人の方が延べで参加されていた。令和2度と比べると、令和3年度の延べ参加者数は増えているが、コロナ前と比べると3割にも届かず、まだ戻っていないというのが実態である。

また、コロナ前においても本市の市民館・図書館の利用者は年々減ってきている中で、コロナ禍に突入したという状況であり、そのような点からも、市民館の活用状況を含めて社会教育に関わる環境が厳しい状況にあるかと思う。

こうした状況にあっても、より一層暮らしやすい地域社会の実現を目指して、どのような学びの場を地域にデザインしていくべきかを、ぜひ委員の皆様方と一緒に考え、議論をさせていただきたいと考えている。

これまでの社会教育委員会会議では、委員相互の意見交換や調査研究が中心に行われてきたところだが、今期の会議については、教育委員会と社会教育委員会会議の連携をより深めていくために、新しい体制と仕組みを構築し、教育委員会と社会教育委員会会議が一体となって本市の教育課題に取り組んでいきたいと考えている。詳しくは後ほど、議題の中で事務局から説明させていただく。

これから2年間、委員の皆様方には、それぞれの専門や活動の経過から様々なご意見をいただき、本市の社会教育をより良い方向に進めていきたいと考えているので、よろしくをお願いしたい。

事務局 続いて、委員の自己紹介を名簿順にお願いしたい。

< 名簿順に委員それぞれが氏名と出身団体等の自己紹介を行った。 >

事務局 続いて、事務局の紹介をさせていただく。

< 事務局名簿のとおり、事務局の紹介を行った。 >

事務局　それでは始めに、議長及び副議長の選出に入らせていただく。

< 議長には中村委員への推薦、副議長には奥平委員への推薦があった。 >

< 中村委員、奥平委員への推薦について、承認を経て議長・副議長に選任した。 >

事務局　以降の議事進行については、議長にお願いしたい。

議長　今期は今までの社会教育委員会議の経験の蓄積を生かして、教育委員会との連携をしていきたいということなので、皆様のご支援をお願いしたい。

それでは、(1)報告事項①社会教育委員会議の職務及び今期会議の進め方等について、事務局からの説明をお願いしたい。

< 箱島生涯学習推進課長から、資料1に基づき説明。 >

議長　ここまでの説明について、ご不明な点があればお願いしたい。

市民館・図書館の管理・運営の考え方、川崎市民館・労働会館 管理運営計画については、3回でまとめなければいけないというタイトなスケジュールである。

委員の方で何か質疑はあるか。

和田　丁寧に社会教育委員の意見を聞きながら、我々は広い意味で市民の代表なので、市民と協働で進めていくという前向きな提案で良いと思った。生涯学習活動の方針の策定に社会教育委員が関わるということは良いことである。そのうえでこれは要望なのだから、スケジュールでは、1回目の定例会で「市民館・図書館の管理・運営の考え方（案）」及び「(仮称)川崎市民館・労働会館 管理運営計画（案）」の説明があり、次回が意見聴取となっているため、その場で一定の意見聴取ができた方がよいと考えるので、事務局でも柔軟に対応していただけないか。

事務局　本日の資料で意見書を配布させていただいた。1回目で多量な説明をしてから、意見をいただくが、ゆっくり資料を読んだり、各出身団体に持ち帰って意見を出したりすることもあると思う。会議以外でも、疑問があればその都度事務局からお返ししたい。会議は限られた回数なので、なるべく効率よく、多くの意見をいただく時間を長くとりたいと考えている。

下田　回数が少ない中で、市民館・労働会館の問題を把握して、今後どう管理運営するのがよいか諮るとするのは難しいと思う。

平成26・平成27年度社会教育委員会議で、市民館・図書館のあり方について、武蔵野市や横浜市の指定管理の様子を見学したうえで、意見などを報告書にまとめられている。短い期間で、自分の意見をここまで言えるのかという疑問がある。

平成26・平成27年度の社会教育委員会議としての一定の見解と、そこから古くなったこと、今も活きていることがあると思うので、学ぶ機会が必要だと思う。そのような機会をスケジュールの中に入れてほしいし、定例が難しければ、臨時でやってもよいと思うくらい重要なことだと思う。

事務局 当該報告書は皆様にすぐにお送りする。報告書を読んでいただいたうえで、臨時会をやるかどうかは議長と相談したい。皆様に学んでいただく機会としてまずは資料を送るということでしょうか。

議長 事務局から資料を送っていただいて、その後については事務局と相談する。タイトなスケジュールの中でどうするか、追ってご連絡する。

和田 報告書はネットから見ることができる。社会教育委員が2年間かけてつくっており、市民目線の良い報告書になっているので、今後の指定管理化への議論にも役に立つと思うので、ぜひ読んでいただきたい。

今後各委員から届いた意見や質問について、第2回定例会での意見聴取の際に役立てることができれば、今の下田委員の意見もうまく反映できると考える。

議長 続いて、(2)協議事項①各種委員の選出について、事務局からの説明をお願いしたい。

< 関担当係長から、資料2に基づき説明。 >

< 全国社会教育委員連合、関東甲信越静社会教育委員連絡協議会、指定都市社会教育委員連絡協議会は、事務局にて対応すること、神奈川県社会教育委員連絡協議会は中村議長・奥平副議長を理事として選出することについて、承認を経て決定した。 >

< 大ホール優先利用調整会議について、下田委員から立候補があり、承認を経て大ホール優先利用調整会議の委員に選任した。 >

議長 続いて、(2)協議事項②「市民館・図書館の管理・運営の考え方(案)」及び「(仮称)川崎市民館・労働会館 管理運営計画(案)」について、生涯学習推進課からの説明をお願いしたい。

<山口事業調整担当課長、柿森社会教育施設整備担当課長から、資料3に基づき説明。>

議 長 今の説明について、質問等あればいただきたい。

和 田 そもそもなぜ指定管理者制度の導入にいたったのか。職員から「直営方式ではやっていけない」という声があったのか、または市民から「直営方式は市民のニーズに答えていない」といった声があったのか、伺いたい。

山口担当課長 指定管理者制度はあくまでも手段である。市民館・図書館の今後10年先を見据えた方向性をまずは作ろうと「今後の市民館・図書館あり方」を、令和3年3月に2年ほどかけて市民意見も聞きながら策定した。市民館・図書館に対する期待やニーズも広がっていることが把握でき、例えば地域のコミュニティスペースや館内以外での学びの場の展開といった意見が多数あった。その中で、あり方を実現するためにはどうするのか、という視点で検討してきた。職員を大幅に投下することは市の現状では難しい中で、民間の力を活用するという方向性を導き出した。

和 田 本当は「地域の中で活躍できる市民館には人が欲しいけど、現状の職員では人が足りないからこの制度を導入する」という理解でよいか。

山口担当課長 マンパワーの面もある。さらにノウハウの面もある。広がりのあるサービス感を求められている中で、民間の持つノウハウとマンパワーを活用しながら進めていくものと考えている。

和 田 今回の管理運営の考え方を進めるにあたり、現場職員の声をどのように聞いたのか。あるいは市民の声をどのように反映したのか。

山口担当課長 図書館は、生涯学習部の中の一つの部という扱いになるので、部内での協議を頻繁に行った。特に図書館長会議や、より現場に近い職員の会議等の場で、あり方策定のときから協議を重ねてきた。市民館は、市民館長会議や係長級の会議、また、区役所の意向もあるので、各区長・副区長との協議の中で方向性について検討してきた。

和 田 政令指定都市はなぜ指定管理者制度の導入が多いのか。

また、これは質問であり要望でもあるが、指定管理者制度の導入は川崎の社会教育の歴史的な大転換であり、この数回の会議も歴史的に振り返られるという自覚を思っている。

視察調査に行ったのは、市民館関係だと基本的には指定管理者制度でうまくいっているところだと思われる。直営方式を維持しているところ、あるいは一部直営方式を残している自治体・政令指定都市もあるのではないかと考える。

この視察調査だと、結論に向かっていいところ取りの調査値になっているという感が否めない。なぜ視察調査がこの場所だったのか、学識の立場としては恣意的な選抜に感じる。

事前にこの社会教育委員会議の場で相談してもらえれば、視察についても一緒に研究できたのではないかと感じる。

市民に開かれた説明をするという観点から、より多角的・総合的に、そして公平に検討していることがわかるような形であることが必要である。

山口担当課長 川崎市の市民館はホール併設型で、他都市に比べて規模感が大きいものであり、他都市でいう生涯学習センターの形に近い。他都市の公民館は地域ごとに数多く設置されており、地域密着の小規模のものが多い。その点で、そもそもの性質が異なると言える。

政令指定都市に指定管理者制度が多い点については調べ切れていないが、受託事業者の状況や導入のしやすさを総合的に判断しているのではないかと考える。

生涯学習センターのようなホール運営を抱えているところについては、専門性が高くなり、民間に任せる傾向が強いように感じる。規模が大きくなってくると管理運営にも手間がかかるため、公民館よりも生涯学習センターのような場所が、指定管理者制度導入の実績値が高まっているのだと考えられる。

視察調査については、全国的にも優良事例とされ、うまく民間の力を活用している団体を中心に見てきた。それは、我々が直営でやってきた歴史の中で、新たに一步踏み出すために参考にしたいということと、もともとは直営だったものをなぜ導入に踏み切ったのか、課題はどんなものがあったのか、行政の立場で確認することができ、さらに行政と管理者の両方の立場について話が聞けるということであった。

また、視察調査したのは複合施設が多く、図書館と市民館が一つの建物に入っていたり、ちょっとした市民交流施設がついていたり、川崎市の状況に近いということを踏まえて伺った。

金丸 資料の中に「スパイラルアップ」とあるが、例えば個人で本を借りるという個人の学びをしているが、これがさらなる高みにつながっているかということ、個人の課題ではないのかとを感じる。

また、市民館を利用しているが、スパイラルアップができていないのではないかと

という印象を持っている。その点について、利用者に「スパイラルアップしているか」というようなヒアリングをしているのか。

山口担当課長 直接利用者に「スパイラルアップできているか」ということを確認するのは難しい。

これまで市民館では、講座を受けた人が学んだ知識を活かして自分で何かしたい、団体を作りたいといった動きをして、自ら講座を運営するというような流れできていた。しかし、最近はそのような流れが弱くなってきている。

もともと市民館は、学びを出発点に活動を誘発し、それが地域の支えとなるということを意識して仕掛けていく施設である。本来社会教育施設はそのような発射台であるべきという認識で、それを求める意味合いの「スパイラルアップ」ということである。

奥 平 指定管理者制度導入の効果について、概要版にあるこの内容が、なぜ行政でできないのか。「指定管理者制度を導入したからこうなる」ということではないと私は読めた。オープンスペースを利用した施設利用の促進なら、今やればよいし、ICTを活用した情報発信も行政ができないわけではないと感じる。これらは指定管理による効果であるということではないと考える。

川崎市民館・労働会館の管理運営計画について、すでに指定管理者制度が導入されている労働会館の記載として「経費の縮減を図ることを目的として、運営管理をしていく」とあるが、これまでは経費についての記載がなかったと思うので、特殊な例と感じた。

また、運営収支にある「利用料金収入の向上」とあるが、これは値上げなのか、と読み取れると感じた。個人的には市民館・図書館が社会教育施設として非常に重要な施設であると考えた中で、多くの方に利用してもらう環境作りとしては、値上げによる運営は難しくなる可能性があると考えた。

行政が運営したままで値上げすることも、条例を変える等必要になるのか分からないが、運営をするうえでの予算上の問題で、受益者負担という考え方は指定管理でなくても可能だと思うので、それぞれの論点について、指定管理でなければできないことではないと読み取れた。その点もぜひ留意いただきたい。

さらに、管理運営主体に求めるものとして、「地域の特性や実情に精通した専門性の高い人材の確保」について、地域に根ざした社会教育施設としては非常に重要なことであると考えたので、仕様書にしっかりと盛り込まれていくものと思う。他都市の状況は調べればよいが、地域や地元に関することは、その地域の人がよく知っており、貢献できることもあると思う。地域性を失わない形での運営が重要であると考えた。

山口担当課長 指定管理者制度導入による想定効果については、本編に、より詳しく他都市の事例を踏まえたイメージを記載しているので、後ほどご覧いただければと思う。

ご指摘の通り、限りある資源をうまく活用しながら、どうしたら実現できるかという視点に立っているものなので、直営では絶対にできないというものではないと言える。

しかし、うまく民間のノウハウを活用しながら、今、行政が持ち得る資源の中で実現をしていきたいということで、考えているものである。

料金については、条例で上限額を決めているもので、指定管理者制度を導入することで値上げするという事はない。社会状況の変動に鑑みて他の施設と同様に市全体として検討して値上げするということがあるかもしれないが、単純に収支構造を上げるために料金を上げるということはない。市民館でいただくのはあくまでも実費のもので、ここで収入が大きく改善するとは想定していない。

ただし、現在の館の利用率が50%に留まるので、利用率が上がればより多くの方に利用していただき、さらに料金収入も上がるのではないかと考える。

地域性の部分について、非常に重要なご指摘をいただいた。大事にしてほしい部分等を委員の皆様にはしっかりとヒアリングして、しっかりと受け止めながら、指定管理者制度の活用を検討するため、これからも皆様のご意見をいただきたいと思う。

丹 間 すでに進み始めている施策に対して、社会教育会議としては、実効性のある意見をまとめていくことが重要であると考えます。

先ほど和田委員からも視察調査について質問があったが、同じ政令市の千葉市の場合、公民館には市の外郭的な団体が指定管理になっている。川崎市の場合は、市や教育委員会の外郭的な団体による指定管理を想定しているのか、またそのような団体があるのかどうか聞きたい。

次に、直営・業務委託・指定管理それぞれにメリットデメリットがあり、すでに検討が始まっているということだが、市の責任の所在が非常に重要な観点になってくる。資料1の20ページに同様の質問があり、回答に「仕様書」とある一方、管理運営の考え方には「業務要求水準書」という言葉が出てくる。この二つの違いを教えてください。それぞれ誰が作成するもので、どのくらいの頻度と機会、指定管理者に対して提示していくことができるのかを伺いたい。

最後に、市民や利用者の意見を定期的に反映させていくことが重要であると考えます。そこで、資料2にある「審議会等」とは具体的には何を指すのか伺いたい。

箱島課長 市の出資法人として生涯学習財団という団体がある。生涯学習財団もいくつかの施設の指定管理者となっており、川崎市子ども夢パークもNPOとジョイントして運営している。

仕様書を使うのは指定管理者の募集を行うときであり、教育委員会が、募集の際に使うものである。要求水準書は、仕様書を作る際に、例えば人員の配置やサービスの内容としてこんな事業をやってほしいなどといった、どこまでの水準を求めるのかを示すものである。

これらの仕様に基づいて事業者が手を挙げ、提案書を提出してもらう。提案書の中身は精査をして、外部も入れた選定委員会を行う。最終的には教育委員会、市議会で承認をいただく。

山口担当課長 審議会とは、社会教育委員会議や各市民館が持つ専門部会、図書館の専門部会を指している。

井 口 市民館・図書館の管理・運営の考え方に関して、今後求められる市民館・図書館の機能としての「人づくり・つながりづくり・持続可能な地域づくり」が、それぞれが何を担っているのか、詳しく教えていただきたい。例えば、多様な市民ニーズに応えることがまちづくり施策の推進役としての機能を満たすことになるのかどうか。

必要な機能を満たすため、必要な機能を担うための設計や、そのための機能要件が整備されているのかどうかを教えていただきたい。

箱島課長 生涯学習施策は生涯学習推進課が中心を担っているが、他にも地域教育推進課、文化財課があり、首長部局ではスポーツ行政、文化行政も担っており、生涯学習施策の分野は幅広いと言える。

その中で、スパイラルアップの考え方にも通じるところだが、どこかひとつの部署の話ではなく、生涯学習施策全体として、各部署が連携してそれぞれの役割を果たしていかないと、「人づくり・つながりづくり・持続可能な地域づくり」はできないと考えている。

特に社会教育の分野での市民館は、様々な講座を通じて市民に主体的に学んでもらう場を提供し、その人たちが地域で活動していくための支援をする、ということを中心に行ってきた。さらに、地域で活動する団体を育てながら、その団体が地域の中で、地域づくりの担い手になっていくことをイメージしている。

図書館は、個人が主体的に学んだことを、次に何に活かしていくかという点で、例えば読書支援のボランティア活動等でつながりを持って、一緒に地域を作っていく取組をしてもらっている。

抽象的なものが多いと思うが、特に「持続可能な地域づくり」という点では、われわれの部署だけでなく、市役所全体で取組んでいくものと考えている。

市民館については、指定管理者制度を使うことによって社会教育分野の再構築をするという認識でいる。今までは管理運営をしながら社会教育振興事業も行っており、維持管理の部分は委託で民間の力を借りながら、最終の判断は直営の職員がやっている状態である。

今後、効率的な館の維持管理については指定管理者の力を借りつつ、さらに社会教育振興事業をするために、区の中に社会教育支援の部門をしっかりと置くことで、区と連携できる形をとって、市民館のみならず区域全体で様々な施設と連携していけるような新しい仕組みを作っていきたいと考えている。

地域づくりの最前線にいるのは区役所なので、持続可能な地域づくりを区役所と一緒に連携しながらやっていきたいと考えている。

井 口 説明の中にもある「コーディネート」機能について、市民の学びだけでなく、区内や市全体としてもコーディネーターという役割は重要な機能であると感じた。

議 長 意見書はどんなかたちでも良いと思うので、質問や気づいたことなどを出していただきたい。この期は川崎の社会教育の歴史的転換期であると考えてるので、しっかりと検討していきたい。議事についてはこれで終了とする。

事務手続きについて事務局から説明をお願いしたい。

< 事務局から、意見書及び事務手続きに係る提出書類について説明。 >

議 長 積極的にご参加いただきありがとうございました。
議事をお返しする。

事務局 議長、ありがとうございました。
また、委員の皆様方も長時間に渡り、ありがとうございました。
資料等で、気づかれたことなどがありましたら、事務局までお寄せくださるようお願いしたい。

それでは、令和4年度第1回社会教育委員会議は、以上をもちまして終了とさせていただきます。

以上

令和4年度 社会教育委員会議第2回定例会議事録（摘録）（案）

1 日 時 令和4年7月27日（水） 午後6時30分～午後8時30分

2 場 所 生涯学習プラザ 401大会議室

3 出席者

(1) 委 員

森島委員、渡邊委員、岩木委員、金丸委員、石村委員、下田委員、丹野委員、
山本委員、石川委員、大津委員、高森委員、井口委員、秋元委員、丹間委員、
中村委員、長岡委員、奥平委員、河村委員

（欠席：町田委員、和田委員）

(2) 事務局 岸生涯学習部長、箱島生涯学習推進課長、山口事業調整担当課長、
柿森社会教育施設整備担当課長、関担当係長、齋藤職員、小林職員、
柳尾職員

4 議 題（すべて公開）

(1) 報告事項

① 専門部会報告について 【資料1】

(2) 協議事項

① 「市民館・図書館の管理・運営の考え方（案）」及び「(仮称)川崎市民館・労働会館 管理運営計画（案）」に対する意見聴取について

【資料2-1】【資料2-2】【資料2-3】【資料3】

5 その他

6 傍聴 6人

事務局 会議に先立ち、事務局からお詫びであるが、会議の招集は社会教育委員会議規則第3条に基づき議長名ですべきところ、教育長名で招集をしていた。次回からは議長名でお送りするので、この場でお詫び申し上げる。

本日の委員の出席状況は、委員20名のうち、18名出席で過半数以上出席のため会が成立していることを報告する。また、傍聴の出席があることを併せて報告する。

事務局 前回の会議録について承認してよいか。

議長 出席者に部長の名前が抜けている。部長の挨拶もとても大事なことを言っていたと思う。その点については、記載をしていただければと思う。

事務局 併せて記載させて頂く。

それでは、以降の議事・運営に関しては議長にお願いしたい。

< 議題(1)報告事項①専門部会について >

議長 事務局からも話があったが、次回からは議長名で招集させていただく。

それでは、次第に沿って進めさせていただきたい。

専門部会報告について、事務局から願います。

< 事務局から専門部会報告について、資料1に基づき説明。 >

議長 皆さんにご意見を伺う前に、資料3をご覧ください。これは前回皆さんにお配りした資料である。社会教育委員会には専門部会があるが、専門部会が個別に審議しており、繋がりが無いのが問題ではないかと思う。社会教育委員の立場として、各審議会の状況を知ると共に、私たちの会議についても知っていただく必要があると思う。連携していくことが大事なので、資料3のように、7月、9月、12月、3月と定期的に報告してもらい、意見交換をしていきたい。今後、指定管理者制度が導入されるにあたり、どういう仕組みでお互いに連携するのかを考えることも大事である。急に制度を変えることもむずかしいと思うので、一年間かけて、どういう報告の仕方をしたらよいか、検討をしていけたらと思う。

それぞれの内容についての意見、どういう仕組みでどう連携していけたらいいのか、どう報告をしてもらったら有意義かという視点で意見をいただきたい。

丹 間 専門部会の審議報告書に「主な意見」という箇所がある。部会によって要点を絞って書かれていたり、意見交換の内容が具体的に書かれていたり、統一されていないが何故か。

箱島課長 専門部会とのやり取りについては、以前の社会教育委員会議の中でも議論されたことを踏まえ、報告書という形で整えたが、各専門部会の内容のトーンについて、事務局と区の職員も含めた統一感がないのは事実である。相手に分かりやすく伝わる中身で統一感を持った記載にしたいと考えている。

丹 間 例えば連携という意味では、市民館・図書館の管理運営の考え方の案について、各専門部会でも議論されていると思うが、それぞれの部会でどんな意見が出ているのか一覧で見たい。

議 長 それぞれの専門部会で、本日の協議事項で話す内容について、出された意見を抜粋するなど、次回までにまとめてほしいがやっていただけるか。

箱島課長 「市民館・図書館の管理・運営の考え方」等について、専門部会でどんな意見が出たのか、まとめたものをお出しするということでよいか。

議 長 お願いしたい。提言書の中に、専門部会の意見を付け加える形にできたらよいと思っている。

下 田 現状だけでなく、昨年度の課題と比較して、どうなったのか知りたいと思うので、昨年度の課題についての項目も付け加えて欲しいと思う。

議 長 課題とはなんの課題か？

下 田 その館が抱える課題のことである。市民館に若者が少ないという課題や設備の点で課題があるならそれを書いてもらって、その課題に基づいて今年度話し合わせるのだと思う。

箱島課長 報告書に記載する項目については、施設側の意見も聞いたほうが良いと思っている。施設の意向や各専門部会委員の意向も踏まえて検討したい。

議 長 施設との調整の中で決めて頂きたい。課題も、どの時点での課題かによって難しいと感じている。ただ、課題に基づいてどの様に展開していくかというのも大事な視点であり、貴重な意見である。他に何かあるか。

高 森 地域教育会議で麻生区議長から、昨年度の専門部会で建設的な意見が出ていたときいた。今年度の話だけでは、昨年度の意見が反映されないと思う。関連していると

ころは少し掘り下げてまとめていただきたい。

箱島課長 過去の専門部会での意見について、どこまでできるか、というところはあるが、追える部分についてはいただいた意見を参考にしたい。また、専門部会以外にも、地域教育会議やPTAなど約30の団体に説明に伺っており、そこでいただいた意見はまとめていと思う。

議 長 社会教育委員会議なので、少なくとも専門部会での意見まではまとめてほしいと思うが、それ以外の部分については、どこまでできるか、事務局で考えていただければと思う。

専門部会の報告については、どういう書式で報告していくのがよいか、今後も意見を事務局に出してほしい。

< 議題(2)協議事項①「市民館・図書館の管理・運営の考え方(案)」及び「(仮称)川崎市民館・労働会館 管理運営計画(案)」に対する意見聴取について >

議 長 それでは、(2)協議事項①「市民館・図書館の管理運営の考え方」に関する意見聴取について、事務局から説明をお願いします。

事務局 どのようなかたちで社会教育委員会議としての意見をまとめるのか、議長・副議長と相談しているところである。資料2-1は、後ほど中村議長から御説明いただくが、資料2-2は、6月いっぱいまでに皆様からいただいた意見や質問に対する市の考え方をお示ししたものである。これについては、事前に委員の皆様へ資料をお送りしている。資料2-3は、奥平委員からも資料をいただいているが、前回の会議でも平成26・27年度の研究報告書について意見をいただいたので用意したものである。

議 長 川崎市の社会教育の制度が大きく変わろうとしている。決定しているものについて、いかに良くしていくかという視点に立ってまとめていく必要があると思うので、個人ではなく社会教育委員会議として意見を出していきたい。なぜ、意見を3回でまとめるかという、教育委員会への報告に合わせているからである。

資料2-1をご覧ください。これは案であり、次回までに確定させていきたいと思う。社会教育委員会議の審議報告のところ、目的は「市民館・図書館の管理・運営の考え方(案)」及び「(仮称)川崎市民館・労働会館 管理運営計画(案)」で言及されている指定管理者制度の導入効果や導入にあたっての視点について、社会教育委員会議としての意見を取りまとめ、指定管理者募集時の仕様書等の作成に活かしてほしい、ということがある。主な審議内容はこの2点であ

り、経過については、第1回に事務局から説明をしてもらい、6月末までに委員の皆さんから意見をいただいたということで、意見への回答は資料2-2となっている。本日、第2回会議では、提言の案を皆さんにたたいていただき、第3回でまとめていきたい。

次のページの提言のたたき台について、議長の名前で記載しているが、皆さんの意見を取りまとめて書くつもりである。教育長に向けて出すもので、令和4・5年度社会教育委員会議としてこの2点を検討してきたということである。

次に、川崎市教育委員会は、今回の考え方（案）をまとめるにあたり、必要なプロセスを経て市としての意思決定をしたものと考えられる。その一方で、既に決定された導入の方向性を指摘する委員からの御意見・御指摘も根強く、社会教育委員会議の教育行政における位置づけに改善の余地があったことは否めない、としている。これについては、私は、決定プロセスにもっと社会教育委員の意見が反映されているものと思っていたので、改善の余地があったのではないかと考えた。そして社会教育行政の進め方への意見として受け止めていただきたい、としている。また、社会教育委員会議としても会議のあり方を改善していくので、社会教育に関する諸計画を立案する際には、適宜適切なタイミングで社会教育委員会議への説明を丁寧に行うことを要望する、と書いている。

つまり、決定はしているが決定の過程を考えると今後はしっかりと連携していきたい、社会教育委員会議も改善していくので、行政側も改善してほしいということが趣旨である。

提言として1から5項目を示しており、3ページ以降は皆さんからの意見を項目ごとに書き出している。

簡単に説明すると、1は仕様書の段階、2は選定の段階、3は評価、4は地域づくり、5は人材育成の段階でしっかりと検討することについて書いている。内容、項目等について意見をいただきたい。

意見を考える間に、平成26・27年度社会教育委員会議の研究報告について、当時の委員でもあった奥平委員から説明をいただきたいと思う。前回、下田委員からも、これまでのことを踏まえた議論をした方が良いという意見もいただいたので、奥平委員からお話いただくものである。

< 奥平委員から「地域をつなぐ拠点としての社会教育施設を求めて」～市民館、図書館のあり方を中心に～について、資料2-3及び配布書類に基づき説明。>

奥平 配布書類に沿って、資料2-3の研究報告書作成経緯と概要について報告する。
2014年当時の問題意識として、2010年から市民館事務を区長への事務委任及び補助執行となったのち数年が経ち、どのような影響があるのか、どのような状況だったのかを確認したい、というのが当時の社会教育委員会議での一つのポイントだ

った。また、2015年3月策定の「今後の事務・サービスのあり方」に、指定管理という文言が入っていたので、社会教育委員会議でも指定管理導入の是非について検討する必要があるということであった。さらに、2015年2月に中学生殺害事件が起こり、青少年の居場所ということに関して、社会教育施設がどうあるべきか、社会教育がどのようになされるべきかを検討したい、ということで、通常の会議とは別に臨時会などで、当時、重大な問題として議論した。

この大きな3つの観点から「地域をつなぐ拠点としての社会教育施設を求めて」という研究報告書を作成したという経緯がある。

報告書の結論としては、元々、補助執行が川崎市の中で実行され、社会教育の講座が形骸化したり、専門家不足が進んだりするのではないかと、ということが1点、施設の老朽化や統廃合の流れがあり、宮前市民館や教育文化会館の移転等はこの時期に重なったということが1点、それらの中で運営方針としての指定管理導入が出てきたものと私は考えている。この報告書の中では、社会教育を支える情熱を持った職員の存在が必要であるが、任期制や専門性を欠く人事配置によって継続が難しくなっている現状を指摘している。また、他都市の事例を調べた結果、川崎市のこれまでの社会教育の成果を踏まると、当面の間指定管理者制度の導入の必要性はないと結論付けた。

その後の社会教育委員会議においては、平成28・29年度には「市民が生きやすい社会を創るために」～多文化共生と子どもの人権～として、子どもの居場所、多文化共生と関連してふれあい館のこと、子どもの人権について研究テーマとした。平成30・31(令和元)年度は「市民と行政の連携・協働を支える 社会教育の役割」として、当時、宮前市民館や教育文化会館の移転の問題がクローズアップされていたので、そこを中心に、また市の中でもソーシャルデザインセンターという話題があがっていたので、市民館がソーシャルデザインセンター足りえるかという視点から研究報告をした。令和2・3年度は「学びの継続を支える社会教育」～コロナ禍を背景に～ということで研究報告をした。

これらの研究に関わった者として、特に2014年の研究報告書以降、市民館・図書館のあり方というのは、常にその位置付けを検討するような議論が長く続けられてきたと認識している。ただしその当時は、社会教育をより地域に根差したものにするという観点での多拠点化、たとえばこども文化センターやいこいの家などの施設が社会教育施設になり得るのではないかと、という内容だった。なお、前提として、20万人に1つの市民館しかないという規模感で、他都市の事例では5万人に10数箇所の公民館があるという現状を踏まえると、川崎の中における公民館としての市民館は、非常に数が少ないということがあったので、多拠点化の話題や、同時期に「これからの市民館・図書館のあり方」という議論がある中で、館の運営方針や施設のあり方について長く研究を続けてきたのだと認識している。

私自身反省として、社会教育委員会議の中では、2014年の時点で指定管理者制度

は馴染まないというかたちで、導入はまだ早いという報告書を出した後に、指定管理そのものに関する議論は中心的にはしてこなかったというのが私の認識である。指定管理そのものについて、社会教育委員会議として継続して焦点化し、議論すべきだったのではないかと感じている。

先ほど議長がおっしゃったように、社会教育委員会議のあり方を改善していくということ言えば、過去において研究報告してきたことについて、当時、より踏み込んだ議論を十分にしておこなったというのが現実だったと考えている。

資料2-3の研究報告書の位置付けについては、教育委員会から諮問されたものを答申として返すかたちではなく、形式上は社会教育委員会議が自主的にテーマを設定して研究をしているものという位置付けだと思っている。常に社会教育委員会議の中で議論されているのは、私たちの研究成果・議論の結果がより実効性を伴うものである必要があるという点である。一方で、研究報告は自主的なテーマ設定と当時の社会教育委員会議の興味関心に基づいた報告になっていたといえるので、より実効性を持たせるためには、例えば、諮問と答申のかたちをとり、教育委員会と連携や事務局との調整が、より現実的だったのではないかという思いもある。

社会教育法第17条にある通り、教育委員会への助言をするため、社会教育に関する諸計画を立案することが社会教育委員の職務とされている。これを実現するために、社会教育委員会議がこれまで以上に自ら学び、主体的に議論を尽くすこと、また教育委員会事務局との連携をより深めていくことで、私たちの意見が現実的に反映できるかたちに持っていくことが必要であると思っている。

議長 ありがとうございます。私たちの議論を教育行政に反映させられるようなやり方が大切であると考えている。委員の皆さんからいただいた意見と回答について、事務局がよくまとめてくださって、資料の事前送付をしてくださったことに感謝している。事務局も、良い市民館・図書館にしていきたいという思いがあり、私たちも良い運営をしていきたいという思いは一緒だと思う。回答をまとめた担当課長から説明をいただきたい。

山口担当課長 資料2-2についてだが、全148問、14名の委員から意見をいただいたものを列挙したものである。一つずつをピックアップしての説明はしないが、意見、質問、要望等の区分をしながら回答を作らせていただいた。また、意見書という形でいただいたものと、第1回会議で出た意見も入っている。質問等はなるべく分かりやすく回答させていただくつもりでいる。要望等も今後の制度設計に反映していけるように努めていきたい。

箱島課長 資料2-1の3ページ以降に意見の取りまとめがあるが、今後の川崎市の地域づ

くり、また社会教育の事業展開についてもまとめていただいていると思う。幅広い意見をいただいたと思っている。

社会教育委員と事務局が相互に連携していく必要があったと感じている。実効性について、決まったものは速やかに報告していきたいと思って、議長から指摘いただいた点は重く受け止めていきたいということをつけ加えたい。

議長 意見はありますか。

高森 先ほど奥平委員から研究報告書の報告をいただいたが、社会教育委員ということで会議に出席していく中で、一般的に「社会教育」という言葉自体が周りの人たちに認知されていないと感じている。地域教育会議、PTAも社会教育関係団体であるが、自治体や町会で役員をやったことない人に社会教育委員会会議に出席することを伝えても「社会教育」という言葉が伝わらないことが多い。学校教育は認知されているが、社会教育の意味は分かりづらいというのが実感だ。社会教育に対する認識についても、会議を開くのであれば、2年間の任期中に何かまとめるのではなく、常に肌感として不変のものとして会議を続けていくことも重要ではないかと思う。専門部会の中で一定の報告書として挙げていくということも大事であるが、常に答えを求めつつ出てこないということも、会議の場で話をして現状を見定めることも大事ではないかと思う。もう一つは、市民館と図書館についての話の中で、どこかのタイミングで市民館の利用率が50%程度だという話が合った。目標が見えていないのではないかというのがある。どれくらいの利用率なら目標を達成しているのか、ということを考えていく必要があると考えている。市民館の施設規模、ホールと大会議室と、それぞれの目標値にも差があつてよいと思っている。常にふさがっているのも、常に空いているのも課題であると思うので、社会教育という言葉の認知ということと同じく、常に問い直すということも大事であると思う。

議長 大切なことであつて、資料3のスケジュールの通り、秋以降は生涯学習活動方針のことを取り上げていくことになるので、引き続き考えていけたらと思う。

下田 進め方で聞きたいのだが、本日は、議長がまとめた提言について議論するのか、提言書のようなものは、本日の会議の場で各委員から意見徴収した後に出てくるものかと思っている。事務方の方で、資料2-2のように丁寧な資料が出ているが、今日は多様な意見が交換されるものかと思っている。そのうえで、議長が作成してくださったようなものが出てくるものかと思っている。まとめはいつでもできると思うので、本日の進め方としては自由な意見を各委員から募るということをしていただければと思う。

議長 提言書については、次回の定例会までに固めないといけないので、本日提言書の案を出させてもらっている。意見については、自由に出していただいて構わない。

下田 意見書の提出締め切りが8月1日というのは、締め切りが短いのではないかと。一週間くらい伸ばしてもらいたい。8月1日締め切りにしている意味があるのか。

事務局 皆さんに出していただいた意見は教育委員会にしっかり伝えていく必要があると考えている。逆算してスケジュールを立てていくと、第3回定例会を8月上旬・中旬には実施してまとめていく必要があると考えている。現在次回の日程調整をしているところであるが、8月第2週に会議を実施するとなると、資料の準備等もある。後ろ倒しにするという点については、事務局も頑張りたいと思っている。

下田 ある程度考慮していただけるのか。

事務局 今日日程調整をしているが、8月2日、3日にすることは可能であっても、一週間先延ばしにすることはできない。

下田 ある程度考慮してもらえればと思う。提言書については、議長が大変苦勞して作られたものであると思うが、自分は「一方で」から始まる文書のところで、社会教育委員全員が指定管理導入の方向性に賛成しているわけでもなく、パブリックコメントを6月に実施しているので、そのことが全く触れられていないのは、いかがなものかと思っている。社会教育委員は市民の声というものも聴いて、自分なりに咀嚼して発言するということだと思うので、その点が引っ掛かっている。提言の2番については、公平公正な事業者を選定しようということだが、川崎市には、郷土とか地域に特徴があると思っている。南部は人権意識が高く、北部は音楽大学があったり、文化的なものだったりそういったものが盛んなので、地域性ということも加味した業者選定・評価についても入れてもらいたいと思う。3番目についてであるが、評価して終わりということではなく、業者が適していない場合はどう変更していくかということについてもいれていけたらと思っている。それから、要望であるが、指定管理が5年ごとに見直しなどあると思うが、5年、10年というスパンではなく、20年30年という長いスパンで展望できることが大切だと思うので、とりあえず5年間やっちゃえということではなく、長いスパンでみる必要があると思うので、新たに6番として、そういうものを付け加えてもらいたい。

議長 ありがとうございます。長いスパンも大事だと思う。初めの意見については、社会

教育委員会議として書かせてもらったもので、私たちも市民の代表として参加しているのです、そういったものとして書かせてもらっている。

丹野 同じ社会教育施設であるスポーツセンターについては10年以上前に指定管理者制度が導入されている。それが入ってどのようになったか。そういったところにヒアリングするとか、そのほかの関係施設にヒアリングするとか、今後の市民館・図書館の指定管理をどう考えていけたらいいのか、例をあたっていけたらいいなど思っている。スポーツ施設についていうと、指定管理入れてよかった点もあるし、直した方がよいという点もある。そういったことを踏まえて仕様書だとか、選定委員会、地域の実情を取り入れてという意見もあったが、スポーツセンターも各区でそういった選定を行っているのです、そういうことを参考にしながらやっていたらよいのではないかと思う。ヒアリングして生かしていただけたらと思う。

箱島課長 他の施設で指定管理者制度が入る中で、様々な課題について聞いている。指定管理者制度を進めるにあたっては、全庁で統一して進めていこうとしている。5年間で業者が変わってしまうということについては、市の選定については、各指定管理者施設については、4年目に総括的な評価をさせていただいて、事業運営が市民満足度につながっているか、インセンティブ条項というものがあって、次の選定につなげている。ただ、この条項も課題があって、さらに良い業者が出てくれば、そういった業者を選定することもあって、ほかの指定管理者制度が入っている施設についても加味しながら、検討していけたらと思う。

議長 丹野委員はスポーツ協会に所属しているので、これからも意見を述べていただけたらと思う。

金丸 人材育成について ICT の活用とあったが、人材育成について難しいこともあったのかなと思う。市民館・図書館を使うにあたって、幼少期の子どももいると思うので、ICTを活用することによって、社会教育のポイントや、さまざまな活動が社会教育につながることを伝えていけたら、啓発につながっていくと思う。

議長 楽しく出来たら広がっていくと思う。後ろの方に、大人のことだけでなく、子どものことも考えていけたらという点は付け加えていけたらと思う。

箱島課長 ICT の活用ということで、子供の視点も入れていけたらよいのではないかということについては、少し加えていくということと、前段については、大人の視点が

多いので、子供の視点から見た時に楽しく出来たら、知ってもらおうという視点を入れられたらと思う。

議 長 子供も含む幅広い世代を対象とする視点はとても大事だと思うので、文書の中に入れていけたらと思う。

大 津 私は青少年の団体であるが、高森委員が発言されたように、社会教育委員という会議についていまいち知れ渡っていない。私は全団体の代表という立場で参加しているので、パブリックコメント等についても、知れ渡るように配布している。そのような団体からどのような意見があるのかというのは、知りたいところである。私は途中から令和3年度から入ったのだが、アンケートを取る際に男女平等の意見について10代や20代など若い世代にアンケートを取ったので幅広いところから意見をもらえたらと思う。

議 長 様々な方の意見を入れていけたら、よりよくなると思う。

丹 間 前回実効性という言葉が出ていたが、スピード感を持ってやっていかなければいけないと思う。人材育成について金丸委員から出ていたが、すでに資料2-1の4ページに人材育成について書いているが、教育、社会教育では一番大事なのは人であるので、市民の学びあいについては職員の方がしっかり支えていくという意味では、2ページの5番に勉強会ということが記載されているが、もっと踏み込んでいただけたらと思う。具体的には資料2-2で、2, 10, 38, 60, 72, 133番などで、複数の委員から指定管理の職員の方の資質を高めるなどと、書いていただいている。学校の教員というのは研究と修養で自身を高めるというのが法的にも保障されているが、社会教育でもより重要であろう。今、資料2-1の5番では公共の社会教育施設としての機能を高めるしくみとなっているが、前段階として施設運営を担うために資質能力を高め、市民とかかわるのだと。実際に市民と接する職員の方が生き生きと働いていただいて、それが市民のためにもなるという、そんなところまで踏み込んでいただけるとありがたいのかなと。

議 長 実は私自身も5番が弱いと思っていた。「市職員と指定管理者職員の研修を充実させるとともに、資格取得を推進し、公共の社会教育施設としての機能を高める人材育成に努める」という文言で書けたらと思っている。

高 森 議長がたたき台を作っていたいただいたのは、こういう書き方になるのはしかるべきであると考えている。地域教育会議に説明に来ていただいたときに、選定評価委員

がどのような持ち方をされるのか質問したときに、専門家が入るから大丈夫であると、説明があった。3番に書かれている利用者の評価、ここに書かれていることだと、意見徴収の方法、結果の方法を検討してくださいとなっているが、もう少し具体的に記載することはできないか。これだと、方法を考える、検討するというところで終わっているが、もう少し踏み込んで、こういう対象者にこういうアンケートを取るなど、具体的に描くことはできないか。

議 長 そこまで入れるのは難しいと思うが、言われたことはその通りだと考えている。

箱島課長 今回の指定管理者制度が入っているところの現状としては、例えば利用者アンケート、労働会館の説明の中で入れているが、利用者懇談会などもある。各市民館でカラーがあるが、サークル懇談会とか、利用者の方が集まって意見を聞く仕組みがある。どういった仕組みをとるかということもある。利用者の声ということをしっかりやってほしいということはどこ施設も書いてある。具体的に仕様書に記載するかどうかということは議論があるところである。公開のところについては、民間事業者活用委員会については、外部の有識者で構成されている。統一的に最近入っている公認会計士などの会計が見える専門家を入れている。市のホームページで公開される。それに対して市民館・図書館がやっている利用者の声というものを併せながら考えていくというものもある。現状で仕組みはあるので、今後もしっかり検討してもらいたいということはいれられると思う。

高 森 なかなか具体化するの難しいと思うが、前回の会議で金丸委員からスパイラルアップの質問があったが、まずは行政サイドで規格を募って参加してもらって、その人たちに知識を得てもらって、自主事業につながるのがスパイラルアップであると思う。利用者ということばを分ける必要があるのは、講座に参加した利用者と、企画をする利用者と、同じ意見で統合されるというのは、ちょっと色が変わってくる部分であると思う。同じ利用者であるが、自主的に社会教育を展開していく人間をいかに増やしていくかというのが大事であると思う。分けて考える仕組みを考えてもらえたらと思う。

箱島課長 利用率の視点と同じ部分でご意見をもらっていると思う。アンケートのとり方で差別化していけたらと思う。

議 長 たたき台をいま出しているのは、固まってしまった後には意見が出せなくなってしまうので、ここで、皆さんの意見をもらえたらと思っているためである。ほかに

は無いか。

井 口 議長がまとめていただいた資料で話ができて助かるのでありがたい。提言の4について、3番の評価にもつながるが、連携協働して、進められているかどうかというのほどどのように可視化されているのかという点は気になっている。前回の質問に対しての回答でもあったと思うが、仕様書上でどのように描かれるのかにもよると思うが、共通認識を社会教育委員会議の中で持てたらと、可視化されたらいいのかなと思う。

議 長 ありがとうございます。井口委員の発言に基づいて書かれているところであった。

山口担当課長 資料2-2の井口委員への回答については、会議中での発言をそのまま記載させていただいている。市民活動の広がりや地域づくりの成果についてどこまで可視化できるのかという点については、なかなか見える化は難しい点がある。高森委員がお話いただいたように、活動をやっているよと、どれだけ講座が開かれたのか、というような評価の点について、どのような視点で評価していくかという点についても、他都市の事例や今の施設の事例など、賛同した市民をどれだけ増やせたかということなどの成果の可視化について、研究させていただいて評価できる点につなげていけたらと思う。

井 口 私も個人的に復興支援に携わっていて、地域づくりについて数値化するということは難しいということは理解している。定性的になってしまう点もあると思うが、評価の視点については一緒に研究していけたらと思う。

議 長 そろそろ時間であるが、何かあるか。

下 田 私は総合文化団体連絡会から選出されているので、理事に意見を求めた。文化川崎の編集長、川崎市民劇場の事務局長である方から意見をもらったので、いくつか紹介したい。主にこの方は演劇を55年やってこられた方なので、そういった面からである。「全国的には指定管理者制度の見直しが行われている点について全く触れられていないので、納得できない」「施設管理について業者に要望しても、仕様書の範囲外であるとか、対応できないということもある。行政に伝えても委託内容の変更で対応せざるを得ず、なかなか難しいという状況もあると聞いた」というような意見。「舞台関係者の要望として、公募制をとっているが、入札制度を適用しているので、人件費の削減により舞台門職の専門性の低下を招いている」といった問

題点に対する意見をもらった。

議長 指定管理者と行政の連携の在り方というのを今後考えていけたらと思う。最後に奥平委員から何かあるか。

奥平 私も長く社会教育委員として携わっているが、議長のイニシアチブにより様々な意見が交換されたことについては勉強になった点がある。皆さんがおっしゃった意見はそれぞれが、提言書をより膨らませる、形を整えていくうえで有用なものであったと感じた。

高森委員から初めに発言があったが、社会教育の認知度についてのご指摘については、私自身も共鳴している部分であるので、各委員の発言のそもそも社会教育とは何かということを考えてとても良いきっかけになっていると思う。

議長 提言書については、副議長と担当職員を含めて皆で作成していくものと思っているので、ブラッシュアップして進めていきたいと思う。ブラッシュアップした結果については、会議の直前になってしまうと思うが、改めてご連絡させていただきたい。

議長 前回の会議終了後に、下田委員から、以前の社会教育委員会会議では「その他」で議論をされることがあったと教えていただいた。前回は、時間が無くなり、申し訳なかった。今回、何か皆で共有したいことがあれば、お願いしたい。

特になければ、「その他」の扱いについて、お願いがある。今期の社会教育委員会会議は教育委員会会議等の開催に合わせていることもあり、検討すべき内容が多く、会議が非常にタイトである。そのため、「その他」について扱う時間が割けない可能性が高い。「その他」として時間を取って検討したい案件がある場合には、事前に事務局に言っていただきたいと思います。

それでは、予定されていた議事は全て終了したので、進行を事務局に返す。

事務局 日程調整後の第3回定例会の開催日については改めてご連絡させていただく。意見書は8月1日をメ切としていたが、8月3日までとさせていただきます。それでは、令和4年度第2回社会教育委員会会議は、以上で終了とする。

以上

令和4年度 社会教育委員会議第3回定例会議事録（摘録）（案）

1 日 時 令和4年8月8日（月） 午後6時30分～午後9時

2 場 所 生涯学習プラザ 401大会議室

3 出席者

(1) 委 員

森島委員、渡邊委員、金丸委員、下田委員、丹野委員、山本委員、石川委員、
町田委員、大津委員、高森委員、井口委員、秋元委員、丹間委員、中村委員、
長岡委員、和田委員、河村委員

オンライン：奥平委員

（欠席：岩木委員、石村委員）

(2) 事務局 岸生涯学習部長、箱島生涯学習推進課長、山口生涯学習推進課担当課長（事業調整）、柿森生涯学習推進課担当課長（社会教育施設整備）、齋藤職員、小林職員、柳尾職員

4 議 題（すべて公開）

(1) 報告事項

① 専門部会報告について 【資料1-1】【資料1-2】

(2) 協議事項

① 「市民館・図書館の管理・運営の考え方（案）」及び「（仮称）川崎市民館・労働会館 管理運営計画（案）」に関する教育委員会への提言について
【資料2-1】【資料2-2】【資料2-3】

5 その他

6 傍聴 15人

事務局 定刻となったので、令和4年度第3回社会教育委員会議を開催する。

会議の開始に先立ち、ご報告させていただく。この会議は市の審議会等の会議となっており、「川崎市審議会等の会議の公開に関する条例」に基づき個人情報に関わる事項を除き、公開が原則となっている。従って、会議の内容や発言された委員のお名前も公開の対象となるので、ご了承をいただきたい。また、本日は傍聴の方がいらっしゃることを報告する。本日の委員の出席状況は、20名中18名の出席となっており、委員定数の半数以上となっているので、川崎市社会教育委員会議規則第4条に基づき、会が成立していることをご報告する。なお、本日の終了は遅くとも20:30を予定している。まずは資料の確認を行う。

(資料の確認)

事務局 第1回定例会の会議録について、前回会議の際に御指摘いただいた点については修正を行ったので御確認いただければと思う。第2回定例会の会議録については、事前にメールにて共有をさせていただき、お目通しをいただいているが、修正等の御意見があるか。

和田 第2回の定例会は校務で、参加することができなかった。今回事前に送っていただいたものを、丁寧に確認を行った。3点質問と確認がしたい。

第2回の定例会の議事録の5ページの真ん中で、中村議長が「それについては、私は、決定プロセスにもっと社会教育委員の意見が反映されているものと思っていたので、改善の余地があったのではないかと考えた。つまり、決定はしているが決定の過程を考えると今後はしっかりと連携していきたい」と議長の発言があったが、どう解釈したらよいかわからなくて。決め方に問題はあるが、教育委員会が決めたことだから、社会教育委員会議がこれを受け入れるのは仕方がないと受け止めて良いのかという事。決定の過程に改善の余地がある、つまり問題があるなら、決められた内容に問題点があるのは当然であり、決め方に問題や改善の余地があると議長が認めている限りは社会教育委員会議としてその決定を受け入れることはできないと考えた。決定の過程に問題があるのならば、決定をもう一度見直そうと普通ならなるはずだ。そもそも日本語としても分からない。そこを補足してほしいというのが一点目。

2つ目は、14ページであるが、その他について書いている。「その他で扱う議題については、原則無くすという方向でよろしくお願ひしたい。検討したい案件がある場合には、事前に事務局に言っていただきたいと思う。」という点であるが、社会教育委員は自らの立場、例えば私なら学識という立場、あるいは地域のいろいろな活動をされている方の立場など、それぞれが専門性をもって、社会教育につい

て日頃気づいた点を会議に持ち込んで議論し合うのは社会教育行政を多角的に検討する上で必要なことであると考えている。検討すべき内容が多い少ないは関係ない。その他を原則的になくすのはおかしいと思う。教育委員会が審議させたい事項のみを審議させるという誤解を生むことになると思う。議長はそのようなお考えではないと思うが、この点が2点目。

3つ目は、2回目の会議は出られなかったが、びっくりしたのがそもそも第1回定例会にて議長名で提言を出すことは決まっていなかったように思う。後の協議事項の部分で私の考えは述べるが、そもそも誰が提言を出すとしたのか。いつどこでどうやって決まったのか。それを教えてほしい。

議長 まず、皆さん、たくさん御意見を出していただきありがとうございます。和田委員から御質問いただいた点は大事なことだと思うので、御質問いただきありがとうございます。1点目については、5ページ目の決定のされ方についてだが、あとで使用する資料2-3を御覧いただきたい。社会教育委員会でも令和元年から報告されてきたように色々な審議がされてきている。自分自身も教育委員をしてきたが、このような決定は教育委員会が決めることであって、社会教育委員ではない。ただし、社会教育委員は、教育委員会へきちんと意見をすることが大切だと思う。自分が委員を引き受ける際に、教育委員会へ決まったかどうか確認を行った。決まったことに対して・・・

和田 決まったということはいつ聞いたのか。時期的には、時系列を確認したい。

議長 5月かと思う。

和田 5月に決まったと言われたのか。教育委員会から。

議長 だったと思うが。

箱島課長 今回の決定については、資料の32ページに記載があるが、5月下旬に庁内で決定している。5月24日に教育委員会会議を行い、この内容について市議会への報告を経て、公表させていただいてパブリックコメントを始めているため、5月24日にこの案を決めさせていただいている。その後に議長へお話をさせていただいている。

議長 なぜ日にちを覚えていないかという、私はずっと社会教育委員を引き受けられないと言っていた。教育委員の2期目の要請も断った。なぜかという、家庭のこともあり、忙しくてできないと考えたため。ただ、教育委員を務めていた

時に、どうしてももっと社会教育委員の話をよく聞きたいと思っていた。それができなかったという当時の反省がある。そのため、社会教育委員を1期だけやるということで今回引き受けた覚えがある。そういった過程の中で行っているので、いつ言ったか、確定したかは良く覚えていない。そのため、既に決まったと思っており、そうであれば、教育行政の仕組みを考えると、より良いものにしていかなければいけないものなので、各段階にくさびを打っていくようなやり方をしなくてはならないと思い、そういう言い方をした。2点目についてだが、1回目の時に時間がなくなってしまったことでその他の時間がなく、中身を飛ばしてしまった。2回目の会議の際には、その他事項で扱うことを委員に確認したが、その時は発言がなかった。ただ、2回目も時間がなくなってきたこともあり、大事なことをその他で話すのは申し訳ないので、大事なことから先に議題として時間枠を作った方が良かったと思った。後から急に出てくるのではなく、時間をとりたいからそのような言い方になった。そういったことがうまく伝わってなくて申し訳ないと思う。

和田 誤解が生じてしまう。うまく訂正してほしい。川崎の良い伝統だと思う。

議長 3点目について、最初の定例会でも言ったが、社会教育委員会会議を、教育委員会へのアドバイザリーボードとなるようなきちんとした会議にしていきたいと思っている。市民館・図書館の管理・運営の考え方については、8月の教育委員会に出すのが決まっていて、それまでに提言する内容を確定させなくてはならないという思いがあった。どうやって3回でまとめるかということで、1回目の定例会では、事務局からの説明事項も多く、聞くだけになってしまったと思うので、宿題のような形になってしまって申し訳なかったが、皆さんに御意見を出してもらって、整理する、整理していく過程で多様な意見が出ていたのでまとまらないと考えた。そこで第2回定例会では、提言内容のたたき台を示した。皆さんにたたいていただいて、より良いものにして出したいということをお願いした。というのは、社会教育委員というのは、社会教育委員個人として教育委員会に意見を言うことはできる。ただ、あまりにも多様な意見が多かったので、それを全て教育委員会に伝えたところで、受け止められにくいと考えた。それよりかは、ある程度カテゴライズする必要があると考えたのと、また、今回は事務局が全員の意見に対してすべて回答していた。そういうことを事務局がしてくれたのも、皆さんがきちんと意見を出してくれたからであり、そういう意見をまとめていくことについて、皆さんの御了承をいただけたのかなと思っていた。第2回定例会の際も、先に提言書のような形が出されることで議論しにくいという声もあったが、その時も謝罪させていただき、これをどうしたいという事ではなく、たたき台として欲しいということを申し上げた。

和田 3回しかない中で、このような提言書を出されると事実上決まったような形になってしまう。提言に対しての内容については後で議論したい。事務局に伺いたいが、基本的には、管理運営の考え方については、指定管理制度の導入が決まっている、その上でパブリックコメントをとったということか。議長の発言からは、パブリックコメントの内容を受けても変えないというように受け止めた。そういうことか。川崎市自治基本条例に記載があるとおり、情報共有・参加共同・市民自治の基本理念を確定して物事を決めていくべきだということで、パブリックコメントの扱いを丁寧にするというのは川崎の財産であると思う。今の議長の話ですでに指定管理者制度の導入は決まっているということだった。そうすると、パブリックコメントを取る必要はない、という事だと思うが、自治基本条例の理念に反していることになると思う。なぜパブリックコメントを取るのか、分からなくなった。整理してお話ししてもらいたい。

下田 自分自身も疑問がある。前回提言のところで発言したが、パブコメの発表が8月下旬とホームページに掲載されている。なぜパブリックコメントの結果より先に社会教育委員会が提言を出すのか。社会教育委員会が決めたことに対して、従えというような感じになってしまい、はっきり言って大変心苦しい。社会教育委員会が市民よりも上の立場にあるように見えてしまう。社会教育委員活動のためのハンドブックにも記載があるが、社会教育委員は市民の声を伝える役割を持っており、一番市民の声が聞こえるのがパブリックコメントである。市民にどんな声があるかと、もう決まったことだと、そういう立場に立ちたくない。

議長 パブコメの位置づけを考えた。提言を書いたところでどうなるのか事務局に確認した。今度の教育委員会会議で、パブコメと社会教育委員会会議と、陳情を踏まえて、議論されると聞いた。パブコメは個人一人ひとりが声を上げられる大切なもの。

箱島課長 パブリックコメント制度は自治基本条例に基づいて行っている。手続きについては、市が重要な施策を決める際に意見を聞くこととなっている。意見に対して市の考えをお示しすることとなる。その中で意見を反映して、内容を修正するものについてはその手続きを、A B C Dでランク付けしているものが多い。Aとランク付けしているものは、御意見を反映しその施策の内容に反映していく、というものもある。御理解いただきたいのは、案の決定にあたり、経緯・プロセスについて質問をしていただいているが、今回の件も資料2-3にあるようにプロセスを踏んで案を作り決定している。手順を踏んで行ってきた。すぐに意見を変えるものではない。もう1点。下田委員からの御意見だが、社会教育委員は教育委員会へ助言をできるという目的がある。そのため必要な調査・研究を行うとしている。パブリックコメントの結果についても、公表後に社会教育委員への報

告をさせていただく。パブリックコメントと社会教育委員のどちらが先・後ということではなく、どちらも並列でやっている。どちらに対してもきちんとお答えをしていきたい。

和田 提言書の中に丁寧に手続きを踏んでいくべきということを書くべきだとした。パブリックコメントで、圧倒的に反対が多かったときにも、見直しうるということにはならないのか。民主主義である以上は、反対があった場合には見直さざるを得ないと思うのだが。

箱島課長 指定管理者制度を活用してよりよい制度にしたい。社会情勢に応じて制度を変えていく、その際にはその手順が必要になる。

和田 パブリックコメントで指定管理者制度が反対だと強くあったとしても、基本的には立場は変えないということで、そういう理解で良いか。問題ではないか。

箱島課長 パブリックコメント制度はいただいているコメントについては答えていく。それが市の方向性を変えるものになるかについては、その結果を踏まえてということになり、それを報告させていただくことになる。

和田 変わりうるかどうか。それだけで良い。現状の確認。

山口担当課長 パブリックコメントは、手続き条例の逐条に記載しているが、そもそも政策に対するその賛否を取るものではなく、市民の有益な意見を受けてよりよいものにしていくためのものである。指定管理者制度がマルかバツかというものではない。そこは理解いただきたい。

和田 それは市の方針は一切変えないということか。会議やパブリックコメントの意味がない。多様な意見がある。出された意見を受けて内容を一切変えないということでのよいのか。

山口担当課長 内容を一切変えないということはない。意見を伺って、より良いものにしていくものである。書いてある内容の意見を伺いながら進めていくことになる。

和田 見直すということもありえるのかどうか。それは前提とするべきか。

箱島課長 パブリックコメントをもって、賛否を問うているのではない。

議 長 市議会にも出ているものである。市議会は市民の代表である。様々な意見もあるが、今日の会議に入っていきたい。まずは、議事録の確認でこのような話になったが、議事録は了承という形で良いか。

丹 間 第2回から第3回までの期間が短かったこともあって、漢字の誤変換や誤字が目立つ。直して欲しい。

議 長 個別に言う。お気づきの点があれば事務局へ。和田委員からの2点であるが、すでにお話しているため議事録はこのままで良いか。

和 田 その補足は議事録に載るのか。

議 長 分かるように書き換えることもあるが、皆さんが分かってくだされれば良いと思う。

和 田 これまで通りということか。

議 長 その他は先に言って欲しい。

和 田 そのようなケースがあつて困つたということか。それで不便があつたか。無理やり最後にいうことはない。先に言うのは検閲になる。なぜここまで頑ななのか。

議 長 前回にも伝えたが、例えば、その場で紙を配布するのは自由で良い。ただ、時間がかかることであれば、先に言っていただいた方が、時間をとれて良いと思う。

和 田 よりよくその他事項を使っていこうということで良いのか。

議 長 会議の有効活用をしたい。時間内にやっていきたい。

和 田 原則としてなくす、というのが結構厳しい言葉のように思う。

議 長 原則として、ということである。

山口担当課長 ここでお諮りしたいことがあれば、先に言っていただければ議題に入れられる。その上で議論ができる。

議 長　もし、もう少しソフトな言い方が良ければそのようにしても良いが、意図はこの通りである。議事録の確認はこちらで良い。

事務局　議事録は必要な修正を加えて、改めて示したい。

議 長　それでは、次第に沿って進めさせていただきたい。
専門部会報告について、事務局から願います。

< (1)報告事項①専門部会報告について、事務局から資料1－1に基づき説明 >

< 山口担当課長から資料1－2に基づき説明 >

山口担当課長　前回の会議を踏まえて、主な意見をまとめた。中間とりまとめの意見も集約した。

議 長　御質問はあるか。

高 森　全部が全部ではないのかもしれないが、前回の専門部会の報告や関係団体の説明や陳情を見たときに、賛成している声が見えない。ほとんど疑問をいただいているとしか思えない。賛成している声はるのか。どれがそれにあたるのか。

山口担当課長　御意見については、賛成する意見表明よりは御不安や、反対の御意見が多く寄せられている。

高 森　パブリックコメントは疑問や不安を持っている人が意見を出すことが多い。関係団体の人々は説明を聞いているが、それに対してすごく良い方向性であるという意見が見えないのが疑問に感じる。説明の中でどのような意見が賛成に値するか、どこが良い提言なのか。

山口担当課長　制度導入についての、こういう点が心配であるということの御不安が多い。強く賛成する意見はほぼなかったように思うが、民間活力を利用してうまくやってほしいという御意見や、その流れの中で、そういった活用を一定理解するという御意見もあった。

箱島課長　どうしても、市の施策として出した際に御不安が多く寄せられる。パブリックコメントの中に賛成の声はあるにはある。その声は少ない。御意見の中で、指定管理者制度を入れるのであれば、このような方法でやって欲しいという御意見は多くいただいている。それが賛成なのか、というのは別の話。マル・バツとい

う話ではない。

高 森 長いこと丁寧に説明してきているが、大半が仮に反対だとしても、変えないということになるのであれば何の意見なのか。行政サイドの何らかの意図によるものではないかと思う。運営の(案)にどこに、このようなことをしなくてはならないのか、分からない。反対が多かったときにどうするのかというのが出てくる。今回の報告についても、前も、その案が良いという意見が載っていないのに、なぜ決定されているのか疑問。良く分からないとしか言えない。

議 長 これから資料の2-1について話し合うことを予定していたが、どうするか。提言としてはきちんと出していききたいと思う。なぜかという、このまま何も出さなければ、そのままになってしまうからである。それよりは、こういうことがあると言っておくべきであると思う。いくつかの段階をチェックしていききたい。決まったならよりよくしていききたい。何も言わなければ、社会教育委員の意味がない。皆さんの御意見を反映させてもきた。入れたり入れなかったりしたものを説明しようと思っている。小田嶋教育長あてにしているが、社会教育委員としてどうしたいかを出さねばならない。会議の議長の名前でも、社会教育委員会として出しても良い。人に出しているため人発信で出しても良い。御意見をいただきたい。

下 田 委員会新しいメンバーが指定管理の問題について根本的な議論はしていない。指定管理が入ったらどんなことをしようかと考えたり、根本的な問題を論議したことはない。市民館・図書館に対するアイデアが多く、指定管理の方法とは異なる。前回、16人の出席のうち6人しか発言していない。文書は意見交換にならない。それをまとめられても、全体の意見にはならない。スケジュールもあるが、少なくとも提言を今日決めるのは難しく、パブコメが出た8月下旬にそれを踏まえて論議した方が良いのではないか。あまりにも拙速であり、いかがなものか。特に図書館専門部会について、かなり疑問が出ている。それでも社会教育委員会として出すことには無理がある。その論議を今日はしていききたい。

和 田 私は中村議長の方針に基本的には賛成だが、この前にやることがあって、社会教育というのは、市民の学習の機会を提供するという大きな役割で、だからこそ市民が納得と共感を得ていない制度を導入してしまえば、市民と行政の間の信頼関係に遺恨を残すことになるのではないかと考える。そうした遺恨を残さずに、地域や市民の声を代表し、行政と連携・協働しながら対話的に進める場として、社会教育委員会があると思っている。

今日もらっている陳情書や、多くの傍聴者が来ていることから見ても、不安を持っているのだと思う。その中には、指定管理者制度に即反対、絶対反対ということ

ではないかもしれないが、まだ不安なところがある、納得できていない、ということなのだと思う。だとすると、私はやはり、この提言はいきなり指定管理者制度の内容に入りすぎており、まず提言として私があげるとするならば、下田委員が言うように、社会教育委員会議でも納得したいと思っている。指定管理者制度のデメリット・メリットについてもしっかりと議論したうえで、このメンバーで教育委員会への提言として、「これで行こう」「ここに気を付けよう」と、我々の社会教育委員会議で議論しないと、これは中村私案の域を出ない。中村議長の意見は書かれていて、それに対して我々が意見を言っているが、私の意見は全然受け止められていないと思っているので、私の意見書を本当に読んだのか、と思うが、やはり、遺恨を残すと思う。社会教育委員会議でしっかりと指定管理者制度について議論をすること、私の意見とすれば、これだけ不安や納得がいかない、高森委員が言うように、賛成の積極的な論拠が見えない中で、拙速に導入すべきではないという意見の方を挙げるべきで、これは、その後、指定管理者制度が導入された後の提言である。なので、この提言書は少し付度しすぎている、早まりすぎている。私は、もう一度、拙速な導入は見直した方が良いのではないかと、という提言を挙げた方が良いと思う。その前に、下田委員が言うように、我々は全然議論をしていないので、他のメンバー一人ひとりの意見も聞きたいし、色々なところで指定管理者制度の経験もされていると思うので、丹間委員も専門家でいらっしゃるし、社会教育委員会議で議論しないで、議長が文章を書いてきて、それについて意見を言えと言われるのは、私は乱暴だとすごく思う。それは（意見書に）書いたが、進め方が違うのではないかと思う。私は指定管理者制度、絶対反対ありきで議論したいとは思わないが、このスピードはついていけないという感じがあり、これだけの住民の不安がある以上は、社会教育委員会議でここまで踏み込んでは書けない。まずはもう一度丁寧な説明をしてください、と教育委員会に言うことが筋なのではないかと思っている。

議 長 私もこれは、すごく早いスピードだと思っているので、意見はごもつともだと思っている。ただ、私は、前期の社会教育委員会議やその前に、議論されていたのだと思っていた。しかしそうではなかった。

和 田 そうである。だから議論しましょうと言っている。

議 長 しかし、もう決まってしまっていて、ここでまた何も言わなかったら、また次の動きにもついていけない、どこかでやはり、そこについていかなければならない。ついていくというのは、従うという意味ではなく、行政の動きをちゃんと止めたり、このような提言をしたり、ということをしていかないと、社会教育委員としての役割は果たせないと思う。

今度の教育委員会でもう出るので、5月の教育委員会の議事録を読んだが、もう承認されていた。本当はその前に、言うべきことを言いたかった。しかしそれができなかったのであれば、今からでも自分たちの言いたいことを言っていくしかないと思っているので（提言を）出したいのである。

和田 丁寧な審議をするように、ではダメか。いくつか陳情の文書も出されているが、慎重に議論をしてくださいというのは。

議長 話がどんどんずれてしまっているが、今日は、陳情についても説明してもらうことになっていたし、教育委員会にどのように出していくかということも打ち合わせをしていて、しっかりとやってもらうことになっている。このようなプロセスをしっかりと踏んでいかないと、意見が通らないと私は思う。

和田 この後、陳情について説明があるということか。

議長 陳情というのは、普通は教育委員会に出るものなので、社会教育委員会議のものではないが、私は陳情が出たことを聞いて、「社会教育委員会議でもしっかりと話してほしい」と言ったところ、（事務局は）ちゃんと出してくれた。何も隠していることはないし、教育委員会にしっかりと意見を言っていきたい。そのための情報として陳情についても説明してもらうことになっている。
では、陳情について先に説明してもらう。

和田 この提言を出すか出さないかの議論はいつやるのか。この後で良いのか。この提言は出すことが前提なのか、そのあたりの議事進行について確認したい。

議長 前回、たたき台ということで案を出させていただいた。それを、皆さんにたたいていただいて、皆さんの意見を踏まえて書きましようということになった。ただ、和田委員は自分の意見が入っていないと言うが、私は結構入れているかということも全部お伝えする。それに基づいて、出すか出さないかということを決めるか？

和田 それでよい。ただ、社会教育委員会議でもっと議論しよう、という下田委員の意見はどうか。

議長 議論はしたいが、どこでするのか？

和田 社会教育委員会議だろう。

下 田 臨時でやってもいい。前もそういうことはあった。

和 田 議長のペースに全部巻き込まれていて、こちらはついていけない。もう少し議論して、専門家だっているし、指定管理者制度のメリット・デメリットをしっかりと分かったうえでちゃんと意見を作りたい。自分たちの意見がない、議長の意見だけがあって、多くの人の意見が聞かれていない。少なくとも皆で作った感じがしない。それが社会教育委員会議として出るというので怒っている。

もう一度言うが、社会教育委員会議でちゃんと指定管理者制度について議論したり、高森委員が言うように、賛成の積極的な根拠が見えないという意見も出ているのだから、その辺りをもう少し詰めていかないか、と言っている。それもなしに指定管理者制度ありきのこの文章、提言が出てくることのプロセスが私にはよく分からない。提言というのは、皆で議論したものを踏まえて議長は書くべきではないのか。

議 長 できればそうしたいと思うが。

和 田 なぜできないのか。

議 長 時間がない。

和 田 時間は作るものだ。

議 長 申し訳ないが大学でのスクーリングが始まって、来週会議を行うなら私はこの会議に出られない。それは個人的な理由かもしれないが、私に関してはそれができないので、他のところでやるということもあるかもしれない。

箱島課長 まず、第1回目のときに今回の年間のスケジュールと、このような議論をしたらよいのではないか、ということをお示しさせていただいたが、それに基づいて議事進行がされてきたというところである。

議論をしていくときに、社会教育委員として個人の意見を言えるということもあるが、社会教育委員会議としての意見をまとめていくということもひとつ、大事なことであると私も考えているので、議長はこの中で提案をして、このような進行をされたのだと思う。

先ほど高森委員から「賛成の積極的な根拠が見えない」というような意見があったが、それは御指摘として私も受けるが、我々も決して教育委員会内部だけで議論をしてきたわけではない。資料2-3の中でも、ポイントに応じて市議会に

も報告し、教育委員会にも諮って進めている。その中で、この制度に対して、「強く反対」というものではなく、導入するのであれば、よりよくやってほしいという御意見もいただいております、全部が全部だめだということがもしあれば、途中の段階でしっかりとやらなければならなかった、ということになるが、決して羅列的にやってきたわけではなく、我々は過程の中で御意見もいただいてきて、プロセスを踏んできたと思っている。

ただ、今の議論の仕方については、時間軸というものを考えながら進めていく必要があると思っている。タイミングを捉えて、この時点でしっかりとやっていくことがあるだろうと思う。

和田委員の意見でも、「今の部分とこの後の部分をしっかりと切り分けた方がよいのではないか」というようなものがあつたと思うが、実効性があるものとして、しっかりとタイミングタイミングでやっていくことも大切だと私は考えているので、まずはしっかりと議論をした方がよいと思う。ただ時間については限りがあるので、どうやってやるのかということをお皆さんで議論しなければならないと思っている。

和田 私の見解としては、まずは、慎重な審議をしてくださいという提言を教育委員会にあげたいということである。それは、事務局の歯切れの悪い回答も不安なので、慎重に審議をしてください、という声をあげたい。そのうえで、パブリックコメントや議会を経て指定管理者制度が導入されるということになれば、中村議長が言うような、どうやって指定管理者制度をよりよいものにしていくのか、品質を下げずにやっていくのか、という議論に移る訳で、いきなり「指定管理者制度はこうしてください」という意見はあげるべきではなくて、少なくともこれまでのやり取りや、陳情、今日の資料にあるような専門部会からの声を聞くと、まずは慎重な審議をしてくださいという意見を社会教育委員会議からあげる方が、自然かなと思っている。

もう一つ、私の言い方もきつかったかもしれないが、社会教育委員会議をやるうえで、「私は忙しいから」というのは、それは逆ギレすぎないか？ちょっとそれは失言だと思うし、ありがとうございます、ありがとうございますと言うけど、ちゃんと聞いていない。なので、結局議長の言っていることが決まっているという会議になっている感じがして違和感がある。私は仕事があるのでやれないというのは失言である。撤回して謝罪をしてください。

議長 申し訳ございませんでした。

和田 本当に思っているか？いつも申し訳ございませんと重ねて言うが、そこは違和感がある。

議 長 私も言った後に、よくないなと思いながら聞いていたので、本当に申し訳ございませんでした。

和 田 やはり、社会教育委員会議で傍聴者もいて、議長の権威は大事なので本当にやめてください。

丹 間 朝まで議論しても良いという気持ちがあるが、やはり社会教育委員会議として定められた任期、回数、時間の中でしっかりと濃密な議論をしていく必要があると思っている。下田委員が言うように、前回の会議では指定管理者制度について6名しか発言していないというのは非常によくないと思う。非常勤特別職として責任を持って皆さんこの委員会に出ているわけで、人数もこれだけたくさんいるので、多様な意見も出てくるだろうということで、ぜひそういうところに、今日も含めて、会議の時間をしっかりと使っていただくということが大事かなと思う。和田委員にしっかりと納得いただくために議論していくことも大事だと思うが、まだ発言していない委員も、色々な意見に対して賛成で無言なのか、反対だけど意見しづらいいのか、色々あると思うが、そういったところに時間を使っていただきたいと考える。

議 長 丹間委員のいうとおり、他の方が意見できなかつたかと思うので、皆さんいかがか。

金 丸 私はこの会議1年目なので過去のことはよく分からないが、議長が作ったこの提言は出したいと思っている。というのも、今、私たちが与えられた題材の中で、議論を先に進めることは必要だと思っており、多くのことを考えて何も言わないのであれば、意見がないことを賛成として受け取られるのであれば、私たちはこのように考えているし、私たちの議論も進めているのだ、ということのアピールする題材になると感じている。

河 村 私は今年初めて委員になって、よく分かっていないのに発言しても大丈夫か、ということが心配だった。また、議論としては、ありきで進めるものなのか、指定管理の是非について話すべきなのか、どこで発言すればよいのかが難しいと感じていた。

私自身、市民館・図書館は子どもたちと一緒に使ってきており、ずっと市民活動というカテゴリーで活動してきて、市民活動はよいときは引っ張り出されるが、肝心なときは意見を聞かれない、ということをしごく感じている。政治的だったり、お金が関係することになると途端に行政は後ろを向いてしまう。そうは言っても

指定管理は色々なところで進んでいて、例えば保育園が民営化されたときにも非常に議論がされて、反対も多かったが、民営化されて今がある。そのようなこともある中で、今、市民館・図書館を指定管理にすることに対して賛成する意見はおそらく少ないと思うし、10年後20年後にどのように評価されるのか、というのは難しい議論だと思っている。ただ、今回、色々な会議の中で指定管理の是非について話し合っていて、特に図書館のおはなし会の方や、市民館を舞台にして市民活動をしている方々からの反対意見が多いということを感じたときに、地域の課題を住民が解決するため、それが社会教育だと考えたときには、住民の意見というのは市民館・図書館に関してはすごく大事なのではないかと思う。なので、もし指定管理を導入することが撤回できるなら、そのことに議論の時間を割くべきだと思うということが一つ。しかし、このまま進んでしまうのであれば、議長が言うように今できることをやった方がよいと思う。

秋 元 私も今回社会教育委員としては初めての任期であるが、その前に2年間図書館専門部会の委員として務めた。宿河原小学校で図書館の地域開放事業に参加していることから、図書館を中心に指定管理者制度を調べた。指定管理者制度は導入が目的ではなく、手段であると、山口担当課長から聞いた気がしているが、導入することが目標ではないという説明があり、そこに誠実味を感じた。

図書館法第2条に図書館の資料収集と管理保存と貸出しとあり、資料の収集と保管については、中原図書館でセンター機能を持つ直営館として持つと、貸出しの部分について指定管理者制度に移行していくのだと、説明を受けた。今日も中原図書館を見てみたが、実際の貸出しや返却については、非正規の方がやっているのかなと見受けられた。貸出しは自動化ということもあり、2～3割については、自動貸出しができていて聞いている。図書館の機能としては、レファレンス、調査・支援に係ると聞いていて、指定管理者制度を5年間やってみようじゃないかということであれば、そこに留意して、現行の直営館に劣らないということであれば、価値があるのではないか。最後の砦である中原図書館についても指定管理ということであればそれは勘弁してほしいというところがある。指定管理下にあるそうした図書館とか、その点かなり、おそらくは、名古屋の図書館とか、守谷の図書館とか失敗している例を検証して、担保して、それなりに事務局がよく研究されていると思う。当面の指定管理者制度については、当面見送るという点については、当面を2～3年と見るか、5年と見るのかはわからないが、状況はICT化の進展及びコロナ禍を受けて変わってきている。特に貸出しについては自動化が進んでいるし、大事な本を選ぶ選書ということについては、直営館で管理することなので、あとは、いかにレファレンスをよくしていくかという点を、司書の方についての研修制度について手厚く、川崎市のOBの司書の方に個別に研修とか、書架の陳列とか、司書職員が持つ意義というか、そういうものを教えてもらう。そういう

ことができるとすれば、直営館と同等かそれ以上になるのではないかと、前回の意見を踏まえて書かせていただいている。河村委員と同じで会議の流れがわからないということもあり、発言できなかったという点もある。言ったことがすべてではないので、書面で残る形で、自分の納得いく形で重ねて意見を書かせてもらった。川崎市の民間登用の制度がホームページで出ていたので、5年たったところで、非正規の方が知識も経験も得ているので、無条件で川崎市職員として採用することを目的とするのではなく、あくまでも川崎市職員採用試験受験資格対象者への途を開き、採用試験に合格した指定管理者制度下の非正規雇用職員を川崎市職員として任用すると、地域の方のかかわり、関係機関のかかわりも踏まえて今度は川崎市職員として非正規職員をコントロールすれば素晴らしいのではないかと、指定管理者制度もやってみる価値があるのではないかと思う。5年やってみて、市民の方の反対が圧倒的に多いのであれば、一度清算して、中原図書館が過去の歴史もあるので、歯止めがあるということも踏まえて直営館に戻すことを検討してはどうか。ダメだダメだではなくこういう方向もあるのではないかと。先ほど下田委員もおっしゃっていたが、専門部会の反対意見も強いものがある。単に中原図書館、直営館が指定管理先をコントロールするのみならず、毎年図書館専門部会に報告し、その内容に対して図書館専門部会が助言するということが大事ではないか、という意見を書面で出させていただいた。一番やはり現場に近いところに専門部会があるので、専門部会の機能を活用しないと、机上の論理になってしまうのではないかと思う。

議長 ありがとうございます。今おっしゃっていただいた点については、意見書でも記載をいただいている。順番が予定とは違っているのだが、それはいいのだが、提言書になぜこういう修正を加えたのかということの説明しながら進めていきたい。5番目に人の登用の仕方に関わることが書かれているので、ここで事務局から説明してもらうように準備をしている。そういうことを聞きながらどうしていききたいかを進めていきたいのだが。

町田 指定管理者制度ということだが、一つの例を示すことはできると思う。指定管理者制度の導入前と、指定管理者制度導入後のデメリットがあると思う。例を示すと、私は指定管理者制度の導入前に市民プラザで楽器の講習会に参加していた。その際は泊りがけで習いたい人が市民プラザに宿泊して、翌朝講習会に参加した。指定管理導入後は市民プラザに宿泊できなくなった。その会場を探さなくてはならなくなってしまった。今はどこかの学校を借りているが、そのような指定管理者制度導入後のデメリットがあった。指定管理導入前と後ではいろいろなメリットとデメリットがあると思う。図書館のことは分からないが、指定管理導入前は泊りがけ

でできるということもあったが、導入後はできなくなったということもある。指定管理導入前と導入後のメリットとデメリットについて、いろいろな人から聞いて整理したらよいと思う。各所の指定管理者制度導入前後のメリット、デメリットを検討してほしい。一つの例として示した。

高 森 下田委員から社会教育委員会議で今回の一連の話、話し合ったことがないと聞いた。この資料2-3に書かれている令和元年からの経過を見ると、社会教育委員会議が提言は挙げてないだろうが、意見を述べていると書かれている。今年から関わるようになったのでわからないが、当時委員だった方が討論していない、意見が言えてないということになると、提言については、早急にいったん出さなければいけない。今日の話が踏まえなくてたまたま議長に作ってもらっているのも、様々な意思決定があったと思う。社会教育委員会議の関わり方が足りないということもあるが、全く足りていないというイメージで書く必要がある。社会教育委員会議が意見を言っていないにもかかわらず、こういった形になっている。市民の意見をもっと拾っていかなければいけないという提言にしてほしい。そのうえで指定管理者制度を導入するのであれば、5つの提言をするという内容にしたい。令和元年とか過去にテーマ別に研究報告をしているが、それ自体、いろんな代表が出ているので、様々な経験を持っているが、指定管理者制度いいねという方もいると思う。どんどん意見交換してほしい。解決しなくてもいい。飽きるほど会議をしたらいいと思う。それが本来の会議であると思うので、社会教育委員会議は継続的に審議できるという、そういう提言にしてもらえたらと思う。

議 長 継続的な審議は大事。提言を出したいと思ったのも、パブコメやいろいろな意見でも、出せば、その後のチェックができる。本来は、社会教育委員会議は諮問答申という形にしたいが、そうっていない。そのためには、その都度、教育委員会からもきちんと意見を求めていただけるような会議体にしたいと思っている。

和 田 会議体を変えたいという気持ちはすごくよくわかる、尊重したい。そのうえで今の高森委員の質問に、ゼロベースでこれも意見を含めて書き直してほしいという意見に対して、書き直すことに対してイエスかノーで答えるとしたらどちらか。

議 長 書き直したいと思う。少なくとも、今後も継続していくということや、社会教育委員会議での議論がなされていなかったという点については、どちらも考えていく必要がある。社会教育委員会議も行政の動きを見据えて動く必要がある。教育委員会に迎合するということではなく、行政の動きを見据えていかなければいけない。資料2-3については、事務局に何度も何度も作り直してもらっている。社会教育委員会議にどこで報告をしているのか、やっていないわけではない。やはりや

り方、伝え方に課題はある。和田委員からの意見についても提言書の案に反映をしている。例えば「社会教育委員会議の教育行政における位置づけに改善の余地があった・・・」これは「否めません」となっていたが、はっきり言った方がいいというご意見だったので書き直した。

和田 市民の声を聞いてもう一度書き直してほしいという意見に対してはどうか。

議長 市民の意見を聞いて何を書き直すのか。

高森 提言をいったんこれで、これでというのもおかしいが、いったんここでは疑問が呈されている状況なので、疑問を呈していますと、今後社会教育委員会議は市民の声を拾いながら、検討を重ねた上で提言をあげていきたいという形にしたい。

議長 これに関する提言をもう一度出すということか。一回出して。

高森 そうのことだ。早く何らかの形で出さないと、社会教育委員会議として何もしていないように見えるので、それは早急に。

議長 提言とは思っていなかったが、毎回事務局には報告を求めている。提言を出した方がよければ、出す必要があると思うが、ずっと追いかける必要はあると思っている。秋以降については、生涯学習活動方針について考えていかなければならなくて、そういうこともどんどんやっていきたいと考えている。それが結果的には指定管理者制度に対しての意見になってくるかなと思う。一回出して終わりという事は全く思っていないので、議論を踏まえながら適宜提言を出していきたい。

和田 提言を出すという事には賛成したいが、慎重な審議をしっかりとってくださいと入れてもらうことは可能か。

議長 どこに入れるのか。

和田 どこに入れるかと言われるとあれだが、これまでのたくさんの陳情が発生し、市民の不安な声もあるから、慎重に指定管理者制度の導入について検討してくださいというのをに入れてほしい。入れてもらえないと提言には乗れない。今日の全体の雰囲気があるのではないかと。

下田 これだけ時間をとって全員が発言したかと言いたい。私も相当しゃべりたかったが、じっと聞いて堪えている。そんな状況の中で提言を出せというのは、乱暴

だと思う。どこかでけりを付けなければいけないと思うが、そういう雰囲気が高まったときに、議長の権威も高まるのではないか。教育委員会の人も異動が頻繁にある。やり取りというのはこういうことではないのか、委員が言って事務局が答えるのではなく、委員同士で意見交換をする。当たり前のことではないか、そういうことが無いから、僕はちゃんとやった方がいいし、そういうことを経て提言を出す雰囲気生まれるのではないかと、僕は今回提言を出すことに反対しますけど。

和田 みんなが一致しているのは、慎重に議論してほしいという点であると思う。いろんな経験を持ち寄って話せばいいし、今この場で合意できるとしたら、まずは慎重に色々な不安な声もあるから慎重に議論してくださいというのは、教育委員会にあげるのはなんらおかしくない。議長はそこを止める。みんなの意見を聞いた上で落とすところを探すのが議長の役割だと思う。議長の想いはわかる。指定管理者制度導入が前提、社会学では予言事後成就という考え方があるが、決まるものでしょと言えば、現実動くから、現実を決めつけない方がいいと考えている。指定管理者制度導入の前提で議論しているからずれている。議長どうか、傍聴の数や陳情を見たら、慎重に議論してほしいと伝えたらどうなのか、行政の行方を見ながら、我々だけで決められるものではないので、パブコメや議会の流れで決まるので、指定管理者制度導入に云々は先で、ついて決まるので、こう書けば既成事実が決まるので、僕はそこが問題だと考える。

井口 個人的な意見をまとめるのに時間がかかってしまったが、関係団体とか委員会とかに説明した意見の結果が一覧で見られたので良かったと考えている。

高森委員が話したように不安を抱えているという、前回前々回で言うと、街づくりとか、社会教育の位置づけとか、役割を果たすための要件は何かという、意見を出して、それに対する回答とか、今日の話の議論があったとか、専門、関係団体の意見しかないというのはなぜだろうと、プロセスを踏んだという説明があったので、民間活力の、指定管理者制度導入の、議論の持ち方については行政の怠慢であると思う。

社会教育委員会議の立場として何かアクションを取るとするのは大事であると思うが、提言の2・3について、もう少し強めに行政の責任として発注する必要があるのではと、指定管理者制度導入する立場として、民間活用してよくなるという説明なのだとしたら、過去の指定管理の導入によって課題が出てきているというのは色々なところから出ていると思うので、もう少し説明をしてほしい、するべきではないかと、慎重な議論をしてほしいという意見が出ているが、それを経ても民間活用するという結論が変わらないのであれば、どういう点がよくなるのかという点を話し合いたいと思う。

議 長 時間になってしまったので、まとめないといけないが、ただ、今年も何も出せないというのはしたくないなという気がする。他の委員の御意見はどうか。今度の教育委員会で決まるにあたって、慎重に議論するというのはその通りだと思う。

和 田 それを入れるのがなぜダメなのか。

議 長 入れたいと思っている。一文入れるだけでよいのか。

和 田 そんなアリバイ的には、あれですが。

議 長 もともとの御意見は先のことを書かずに、慎重にやってほしいということだと思う。慎重な議論について記載することはできるが、今は後のことを書いている状態。どうしたらよいと思うか。他の意見を切り捨てるという感じになるので、個人的にはあまり多数決というのは、本当は好きではない。全体の流れとして、入れるときはこうしてほしいと提言の中で言っている。それが反対だったら・・・

和 田 提言を出したい気持ちはわかるが、今回でなくても、社会教育委員会議は2年間ある。そんなに焦っているのはなぜなのか。

議 長 どんどん次の議題に対して提言を出していきたいからである。

和 田 では、最初の提言については、慎重に議論をしてほしいということについてそれをまとめたものを出すということではどうか。まずはやっぱり、繰り返しますが、頭を冷やして考えたいと思うが、拙速すべきではない、もう少し慎重であるべきだという点では一致できていると思うので、申し入れ書みたいな形で、そんな長い文書にならないと思うが、出すことに意味があると考えている。自分の意見である。

議 長 他の学識の先生の御意見等はいかがか。

長 岡 和田委員の意見に概ね賛成であるが、本日2回目の出席であり、前回は驚いたが、今回もこれだけの傍聴の方が参加しており、皆さん意見を言わせろという雰囲気伝わってくるので、申し訳なく思っている。

委員会の流れもこれまでの蓄積があったということであるが、今日の皆さんの御意見の様子を拝見している限りでは、もう少し時間を重ねて練っていくということが必要であると思うし、提言を出すという議長の御意見もわかるし、ジレンマを感じているところである。個人名ではなく、委員会として提言したいなという気

持ちがある。2回目の出席でして意見を言う立場ではないと思うので、勉強させていただきたいと思う。ありがとうございました。

丹 間 前期は研究をまとめることをしてきた。報告を何度もしていただいたが、十分な審議ができていなかった。この3回で、拙速だという意見もあるが、他の自治体では、年間で3回くらいしか社会教育委員会議が設けられない、もっと少ないところもある。これまで3回での議論では少ないということもあるが、皆さんがきちんと発言いただいたり、それが時間の中ではできないので、この意見書という形で文書でまとめていきたいということで、そういうプロセスは踏んできている。なので、速報でも構わないので、今の時点で、慎重に市民の声、パブリックコメントを経て検討していただきたい旨と共に、その上で万が一導入するとなった場合には、市民としてのものになるように、利用者、新たな利用者の獲得も含めて手掛けていただきたい。利用している方は不安が大きいかもしれないが、利用されていない方にとっては無関心である政策の1つかもしれない。ここで出た5点の論点をもっと具体化していくということで、出ているものを最大限教育委員会へ提言することで、指定管理者制度が動き出した場合でも社会教育委員会議も尊重され、適切な情報共有がなされると思う。3回は少ないかもしれないが、そこで濃密な議論をしなくてはならないと感じる。

議 長 20時半になってしまったが、他の方はいかがか。

丹 野 事務局へ確認したい。ここで提言できなかった場合、8月末に策定されるという形か。

箱島課長 御意見は記録で残る。今までも報告を受けて質疑を受けてきた。その質疑は、一つ一つを回答してはいるが、市の施策を決める上で参考にしている。この提言を出さなければ次の段階に行けないということではなく、御意見を踏まえながら、スケジュール感をもちながらやっていきたい。

陳情のお話については、慎重な議論をとのことだったが、すでに教育委員会や市議会にもあがっているものである。ここは教育委員会の中で議論がされる。議論はきちんとしている。我々は慎重に議論をしている。今後も丁寧に説明を行っていくことは継続していく。

丹 野 社会教育委員会議として、提言を出して、その上で策定していただきたい。今までの議論が足りないという意見もあるが、今後も2つ目3つ目の提言を作ることも良いと思う。ぜひ議長の素案を基に、和田委員の部分も加えて出して欲しい。

議 長 　ただ・・

渡 邊 　すでに指定管理が進んでいる中で、どういうあり方が良いか検討していると思っていた。根底の部分が話し合われていなかったように思う。各団体への中間とりまとめの中で、平成26・27年の報告書に指定管理はいらないとされているのに、なぜ今この議論が出ているのか、その辺りの認識がかみ合っていないのではないか。前回、奥平委員が資料を用いて説明を行った。本来であれば社会教育委員会議としての諮問・答申があっても良かったのではという話であった。まずは、根本的な共有をしていただき、その上で、行政のやり方にくさびを打つ、皆さんの意見を加味していただきたい。根本についての提言を出して、社会教育委員会議として市民の意見として方向性を出していきたい。

議 長 　他はいかがか。次の教育委員会には出さないということか。それとも慎重に検討してくださいとして出すか。

下 田 　根本の共有がされていないのに無理だ。

議 長 　その話があって、奥平委員から説明をしてもらった。その上で、まとめていきたいと思っていた。これでは事足りないということか。

和 田 　いくつかパターンがある。議長案に、慎重なのを付け足すか、2段階にしてまずは、今後の部分は議論するとして、慎重に審議してほしいと出して、その上で、議長案を出すか。下田委員のように強い反対の意見もある。できれば、2段階でやっていきたい。まずは慎重に進めるよう提言を出したい。

議 長 　次の教育委員会議はどのような形か。

箱島課長 　次の教育委員会議は、おそらく8月23日か30日、8月後半の予定である。いただいている陳情や審議は多岐にわたる。案を報告する機会になる。

議 長 　御意見いかがか。2段階でいくか。

和 田 　基本的にはそれがよい。議長案を否定しているものではない。井口委員も議長案にももっと具体的にしたいと言っている。議長の気持ちも分かるが、それでまとめた。下田委員から強い意見が出ている。

下 田 提言を出すことを否定しているのではない。ただ、パブコメの結果を見ずに、あまりにも社会教育委員の提言を見たときに、社会教育委員会が上で市民が下であるように感じる。そういう社会教育委員にはなりたくない。提言を出すなら、パブリックコメントを踏まえ議論したい。市民ミュージアムを指定管理にしたが、水没した。そのようなことをもっと話していきたい。知らない人は知らない。

議 長 時間が無くなってしまった。いかがか。慎重に審議してほしいと前段につけて出すか、出さないか。

和 田 議長の思いも分かるが、会議体に押し付けてはならない。長岡委員もフォローしているのに、議長が出したいがためにおかしくなっている。

議 長 出さなくてよいと思っている。これをどうしたいか。

和 田 何を

議 長 これを出さなくてもよいと思っている。

和 田 そんなことはない。何を言っているのか。2段階で出すのもありではないかと言っている。

箱島課長 提言の取り扱いだが、今日の議論は当然議事録がまとまり、議論の様子が出ていく。その上で提言を出すかどうかは

和 田 社会教育委員会議として、出すかどうかということだ。社会教育委員会議のプレゼンスが大事だというなら、社会教育委員会議としてとりあえず慎重に審議してほしいと伝えるのがよいと思う。社会教育委員会議として提言を出すのは賛成。教育委員会へ積極的に伝えていく、議長になってから良くなっている。今日の話合いは、慎重に審議してくださいとして提言を行って、社会教育委員会議として出すことで、社会教育委員会議の存在意義が上がる。社会教育委員会議の名前で慎重な審議を、として出す。指定管理者制度については、ひとまずここで考えなくてよいと思う。これでまとまらないか、議長

議 長 ただ、社会教育委員会議の名で出すなら審議しなくてはならない。

和 田 審議していこう。議長の自分のやりたい方向が強すぎる。提言は指定管理者制度が入ったとすればよいが、今はまだその段階ではない。

議 長 これを出したいというのではない。

和 田 出したらよい。社会教育委員会議のプレゼンスが上がる。社会教育委員会議のプレゼンスを高めたいという話だったため、提言を出すことは良い。

議 長 よいと思っている。ただし、皆さんの意見として出すならばコンセンサスが必要。慎重に出すということは大事。それを出すならば、皆さんの合意を得なくてはならない。

和 田 今からか。

議 長 難しい

和 田 提案はあるか。

議 長 メール審議しかない、あるいは奥平委員にお願いして会議を行う。体調不良もあり、言いづらい。

和 田 会った方がよい。もう一回会議を行った方がよいか、多数決、会議をやると忙しいということはあるが。頭が回らない。

箱島課長 結論がでないと思われる。施設利用は21時までであり、従うべき。取り扱いまで決まらないということでしめざるを得ない。

議 長 しめざるを得ないし、教育行政に携わっていて思ったのが、議事録は大事。今日のも残っていく。提言として残らなくても会議の中で言われたことは、きちんと検討されていく。今日はこういう意見があったとして伝える会になった。それがこの会の結論。ただ、もったいない気もしたが、慎重な議論をするよう提言をするにしても自分一人では出せない。前回と今回はかなり異なる。前回は、奥平委員にこれまでの経緯をお話していただき、これはたたき台だからとして出した。それについての意見を言っていたことだから、提言として出してもよいと思った。出さないということであれば仕方がない。

丹 間 多数決に好き嫌いはあるが、会議規則の第4条には過半数の議決をとることができるとは書いてはある。

和田 多数決は遺恨を残すため、しない方がよい。議長案を前向きに受け止めようとしている。それは、提言出したかったとつぶやくのも違う。議長の社会教育委員会議を変える気概は分かっている。もっと冷静になってほしい。

議長 多数決の意見があったが、どうするか。

和田 私が反対だと言ったではないか。それをどうするかというのは

議長 和田委員の意見も一人の意見として大事。皆に聞いている。丹間委員の意見も大切にしなければならぬ。

和田 それは当たり前だ。

議長 なので聞いた。

下田 論議がつまっていなため、多数決は強硬すぎる。２段階でやるのが筋論。平成26・27年で一度結論を出している。社会情勢の変化はあるものと思うが、それを踏まえた上で、市民の意見を踏まえた上で、議論する。それが筋論ではないか。それで提言を出すべきだ。なぜ多数決が出てきたか。禍根を残したいのか。分裂させて。

丹間 私は提言を出すかどうかの多数決というよりは、今日の時点の方向性について全員の意見を聞くことが出来ていないのが残念。できる範囲で方向性を確認する手段があるか見たところ、議決の規則があることを紹介したまでである。やろうとしたものではない。

議長 時間がない。多数決をやるかどうか議論するところからと思い、意見を伺った。それも時間がない。とりあえず、終わるしかない。それで良いか。

和田 それ以外ない。

箱島課長 時間だけは決まっている。一回ここで終わらせていただく。

< 事務局から事務連絡 >

神奈川県社会教育委員連絡協議会の研修について
※参加希望の場合は8月12日までに事務局へ連絡を。

第4回定例会の日程調整は後日改めて行う。

箱島課長 手元に第4回の予定だと、次のスケジュールの関係で丹間委員から社会教育についてのお話をとお願いしていた。資料にも入れていた。今後の議事は議長・副議長と相談して決めさせていただく。

和田 それで結構だが、今日の議長提言が拙速だった。議長と副議長は、何を課題にするか決められる権限がある。会議の中で課題を出していただいた上で、議論していきたい。

議長 奥平委員とも考える。

和田 そのことについては、私も考える。

箱島課長 議事だけは時間内に進めなくてはならない。会議を前に進めることも大事。それについては協力していただきたい。

議長 最後に、申し訳なかった。進め方が悪かった。時間がないという言い方も悪かった。時間は作るべきだ。反省している。本日はこれで終了したい。

箱島課長 申し入れを今日いただいたものを別途配布している。

以上